

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500048		
法人名	医療法人 五紀会		
事業所名	グループホーム白鳥台 すずらんユニット		
所在地	室蘭市白鳥台5丁目20番10号		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kan=true&JigyosvoCd=0193500048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さまの皆様が安心して楽しくお過ごしいただけるように、お一人おひとりの特徴や心身状態に配慮したケアが提供出来るように努めております。また、ご家族様とのコミュニケーションはもちろんの事、お知り合いやボランティアの方にも気軽にお越し頂ける様なホームの雰囲気作りに努めております。立地的なデメリットは否めませんが、近隣施設や法人内の関係施設との交流や、地域の商店舗様のご協力をいただき外出の機会を作っている様努めております。隣接する母体病院との連携による月2回の健康管理では、入居者様各位について医師・看護師・介護スタッフによる意見交換・情報共有を行い、入居者様が安心して過ごせるようチームで支える体制を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室蘭市郊外の閑静な住宅地に位置している事業所は、同一法人の室蘭太平洋病院に隣接しており、協力病院としてのバックアップ体制が整備され、災害時協力や24時間オンコールの医療連携が構築されて、利用者、家族、職員の安心に繋がっている。開設から10年を迎え、地域とは友好的な関係を築いている。事業所周辺には、系列のケアハウスや保育園、地元スーパー、理髪店、喫茶店などが点在し、ケアハウスとは運営推進会議や季節行事を合同で企画し、地域住民との交流の機会を作っている。幼保園との相互交流、地元スーパーでの食材購入、理髪店や喫茶店を利用するなど、事業所は地元との付き合いを深めながら、利用者の地域生活の充実を図っている。家族とも来訪時はもとより、利用者の写真や職員、看護師からの気付きを添えた「通信」や運営推進会議録を送付して、利用者の暮らしがより事業所の運営状態を伝え、共に支え合う関係を築いている。職員を育てる工夫が、内・外の研修受講の中に見出す事が出来、継続したスキルアップの向上に努めるなど、事業所は多角的な発信力により良い運営に挑み、職員の個性を活かしたりリーダー育成にも力を注いでいる。職員も日々研鑽に励み、事業所の各係りを担い積極的に運営に携わり能力を発揮している。管理者、職員は良好なチームワークの下で、利用者が穏やかに笑顔で暮らし続ける支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームのエンタランスに職員の顔写真付きプレートを掲示し、ホームの理念に沿って各位の言葉で、おのおのがその職種としての心構えを紹介している。	独自の理念を掲げ、事業所内に掲示し、重要事項説明書にも記載している。理念がケアサービスに反映されているか、ユニット会議にて話し合い確認している。新人研修で理念を具体的に説明し、職員の共有化に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	時季の行事には、町内会にお声掛けをし、参加を頂いている。近隣の店舗・施設等との交流を深め、外出の機会を増やしている。	同法人のケアハウスと合同で盆踊りを企画し、地域住民の参加を得ている。地元スーパーで食材を購入したり、利用者が地元の理髪店を利用するなど、地域社会と繋がりを持っている。音楽や舞踊のボランティアや幼保園の子供達の訪問は、利用者の暮らしに彩りを添えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の相談室・居宅介護支援事業所や近隣の包括支援センターからの紹介等で、見学に来られた方に対して施設の説明や認知症の方のかかわりについて説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、町内会役員、包括支援センター職員、市職員にご参加頂き、事業所の取り組み等の報告を行い、事故報告その対策について識者の方からの意見を改善策に繋げている。	運営推進会議は、ケアハウスと合同で開催し、活動報告や行事案内、利用者の状況と事故報告など、運営の透明性を図りながら、参加者からの意見や提案をサービスに反映させている。運営推進会議への関心に繋がる様に、議事録を工夫して全家族に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内GH連絡会に加入し、認知症の勉強会等で市社協との合同事業を実施。運営推進会議には市の職員にお越し頂き事業報告を行っている。	介護制度の不明な点や利用者課題が生じた場合は、行政担当者に電話や赴くなどして、助言、指導を受けている。運営推進会議に市職員の参加を頂き、事業所の現状を伝え情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービスを提供するうえで、問題意識無く行っていることが「拘束」になっていないのか？施設内研修等を通じて鑑みる機会を設けている。	今年1月からケアハウスと合同で身体拘束廃止委員会を発足し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は内部研修で学び、理解を深めると共に、マニュアルや早期発見チェックリストを活用して、身体拘束につながるケアを行っていないかサービス提供場面を振り返り、確認するなど、抑制の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員間での相互牽制の必要性を研修の場等で伝えている。不適切な言葉遣いも、虐待に繋がることとして注意喚起している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	ホーム内・法人内・外部主催の研修の機会を有効利用し、理解を深めるように努めている。後見制度をご利用されている入居者様もあり、学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時に、契約書・重要事項説明書を丁寧に説明している。契約の際には、ホームで出来る事出来ない事を真摯にお伝えし、信頼関係の構築に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご来所時に、意見や要望を拝聴するように努めている。アンケートの実施や運営推進会議にお招きし、直接うかがえる機会を設けている。	毎年、家族アンケートを実施して、意見や要望の把握に努め、家族の思いは職員間で共有し、運営に反映させている。来訪時や電話の際にも家族の要望を収集している。居室担当職員が2ヵ月毎に利用者の写真を添付した通信を作成し、健康状態や暮らしぶりを家族に伝え、喜ばれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その日の介護リーダー制や係り担当制を導入して、施設運営に職員の積極的な協力・参加が出来ている。	利用者へのケアサービスの充実を図る上で、職員の連携と自覚を促すために、その日の介護リーダーを決めたり、各係りも担当制にして、職員の持てる力を発揮し、事業所の質向上に反映させるなど、職員が運営に積極的に関われる環境にある。管理者は職員の意見に耳を傾け、働く意欲に繋がる様に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員・パート職員・事務調理パート等各位の私生活に配慮した勤務時間とできるように、ホーム全体の協力でシフトを作り、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め	研修費用・旅費等の助成もあり、積極的に外部研修に参加できる環境作りに努めている。スタッフの経験・希望に沿った内容のものに参加するように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH連絡会、関連機関との会合等を通じて定期的な交流がある。外部研修や法人内の研修は、他の部署や他職種との交流の場にもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問または施設見学時に、ご家族のお話を拝聴し不安や要望をお聞きし、スタッフに伝達している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に、管理者・計画作成担当者が訪問・面談を行い、ご家族のお話を傾聴する機会を設けている。ご本人の安心に繋がるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当の介護支援専門員等と当ホームの管理者・計画作成担当者・看護師間で情報を共有し、必要とされる支援を把握し早期から対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人とのかかわりで人生の先輩として尊重し、以前の生活の中でご本人が好きだった事等をホームでも引き続きして頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他の医療機関受診時には、極力ご家族にも同行をしていただき、ご家族の絆が、ご本人を支える一番の力である事をお伝えしながら、ご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やお知り合いの方が来訪された時には、ホームでゆっくりして頂けるように努めている。遠方より来所の方には利用者様との写真撮影をして写真をお渡ししたりし、関係が途切れないようにコミュニケーションを図っている。	職員は、家族や友人の来訪を歓迎しており、時には利用者と一緒に写真を撮り、写真を見ながら懐かしむなど、関係継続に努めている。家族の協力の下に、墓参りや馴染みの美容室訪問、病院受診の帰りに外食を楽しむなど、これまでの社会的繋がりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごされる時間が多いので、お隣り同志の会話だけでなく、レクリエーションや体操等への参加を促し、楽しい時間を共有して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本体病院に入院されて退去のケースや、法人内の居宅介護支援事業所へつなぐケースが多く契約終了後もMSW・ケアマネを通じて間接的なフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを図り入居者様の意向に添えるよう関わりを持ちながら支援している。また、意思疎通が困難な方においては動作や表情等から汲み取り把握するよう職員間で協議している。	思いを伝えられる利用者が少ない状況ですが、職員は出来るだけ利用者の傍に寄り添い、会話の中での言葉を聞き逃さずに、思いの把握に努めている。情報は連絡ノートに記載し、職員間で共有を図り、思いの実現に向けて話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様やご本人様からの生活歴等の把握を行っている。これまでの生活を継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送りや連絡ノートに職員が記録し現状を把握し心身状態の変化・表情・行動等の変化に気付ける様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直しを行い、期間中でも入居者様の状況に変化があれば速やかに担当者会議を行い変更を行っている。またご家族とのカンファレンスを行い率直な意見や要望を伺い介護計画に反映させている。	モニタリングは3か月毎に全職員で話し合い、現状評価を行っている。面会時などで家族の意向を確認し、担当者会議を通して、6か月・1年を基本に介護計画を見直している。本人らしい生活支援、介護計画となる様に、介護記録や連絡ノートで情報を共有し、気付きや意見を出し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況とプランの実施状況は、介護記録に記入。他にも申し送り、連絡ノートを利用して介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、他院受診等ご本人とご家族のニーズに対応できるよう柔軟な支援に努めている。また、ご家族同行を基本としているが、その状況によりホームでの対応も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の歯科医の往診、訪問理美容、ボランティア団体、隣接する喫茶店等を利用し地域の協力を得られる環境を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、医療機関に受診できるよう支援している。また、かかりつけ医への受診時は状況説明等、看護師が添書を作成している。	入居時に受診機関の希望を確認しているが、殆どの利用者は、運営母体である協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。入居前からのかかりつけ医や他科の受診は家族対応であるが、看護師作成の状況説明書で情報を提供し、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師間で日々申し送りをを行い、入居者に特変があった場合等、その都度報告し指示を受けている。また、ご家族への伝達も適正に行えるような体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時は看護師が同行し病状や身体状況の説明を行っている。また、入院中は早期退院に向けて入院中の情報を頂き、ホームでの受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では看取りの経験はないが、重度化した場合の話し合いの場を設けご家族の意向を医師を含め、今後についての話し合いを行いそれらを踏まえて方針を決定している。	入居時に事業所の方針及び指針の説明を行っているが、運営母体が医療機関であるため、終末期には病院への移行を希望するケースが多い。終末期には再度、家族、医師、看護師、職員との話し合いの場を持ち、方針を確認しチームケアで取り組んでいる。職員は内部研修や看護師の指導の下にターミナルケアを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ウイルス等の感染時の対応を含め、AEDの使用法の研修を行い、急変や事故を想定した時の対応方法の確認を行っている。また、応急手当等の実践訓練も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防関係者を含めた防火訓練の実施を行っている。母体法人との連絡網も作成し緊急時には近隣在住の職員の協力を得られる体制をとっている。法人で備蓄品を備えており、ホームにはスタッフの発案で、冬季は個別の湯たんぽ等も用意。	年2回、消防署の指導の下に、昼・夜を想定した火災避難訓練を実施している。運営母体である医療機関や系列の事業所とは協力体制が構築されている。災害時マニュアルを整備し、地震対策訓練を行っている。非常時用の備蓄品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りなどの際は入居者様に配慮し居室番号でお呼びしている。訪室の際にはノックと声掛けを徹底。声掛けにも配慮し各位の誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	人前で本人を傷つけてしまわない様に、羞恥心に配慮して目立たずさりげない対応に心掛けている。職員は、研修にて倫理や接遇を学び、人格を尊重する支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が中々難しい場面が多い現状はあるが、選択肢を提示し自己決定して頂ける様支援している。嗜好品や飲み物の種類、温度にも留意しご本人様の意向に合わせて提供して		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の身体状況やペースに合わせてご本人様の希望にそえるよう支援する。食事提供の時間や居室で食事をとりたいたいというニーズにも配慮している。その他希望にそえない場合にも、説明し納得頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や、髭剃り等をご自分に行って頂くだけでなく確認し、整えるよう支援している。また、ご本人の意向に合わせて服や髪型も選択していただける様に支援し、外部の理美容施設や訪問理美容も利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事活動の一環として食材の調理から盛り付け、食器洗い等の片付けまでを入居者様と一緒にやっている。また季節の旬の食材の提供や行事では、視覚的にもお楽しみ頂けるよう支援している。	基本メニューは法人本部で作成しているが、誕生日や季節行事では、職員が利用者の嗜好や希望に沿ったメニューを作成し、手作り料理を提供している。状態によっては、ミキサー食や刻み食で対応している。近隣の喫茶店や食堂での外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取状況や、その時に合わせ、こまめに回数を分けて水分提供を行う事もある。ご家族様の支援を頂きながらご本人の嗜好に合った物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力で出来ない方には介助している。口腔状態に異常を認めた場合には、ご本人・ご家族と相談をし、歯科往診を受け改善できるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用されベッド上での介助対応だった方も生活の中で立ち上がりの練習を行い自身の訴えに合わせてトイレ誘導を行いトイレでの排泄が行えるように自立にむけた支援を行っている	本人の生活リズムに沿った声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。身体機能の低下や排泄間隔が喪失した利用者も、立位訓練や丁寧な声掛けで、トイレ排泄が可能になっている。出来るだけオムツを使用しない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分量の確保を行い、牛乳や野菜ジュースの提供、栄養士によるメニューの提供を行っている。また、歩行運動や下肢の運動に取り組む便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けると共に、お湯の温度や量にも配慮している。また、皮膚状態等にも考慮し、個人の洗身洗剤を使用する等し入浴剤も2種類の物を使用しお楽しみ頂ける様支援している。	午後も基本に、週2回を目安に入浴を行っている。浴槽に入るのが難しい場合は、シャワー浴や足浴で衛生保持に繋げている。脱衣所との温度差を無くす為に、パネルヒーターを増やして対応したり、希望に応じて、同性介助や二人介助を行うなど、スムーズで安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様の状況により、昼寝や疲労感に合わせてお休み頂ける時間を設けている。睡眠パターンの把握や、休まれる時の室内の明るさの調整など環境作りにも配慮し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の管理を行っている。看護師を中心とし、チェックを行い、誤薬がおきないように努めている。変更時等は、看護師より申し送表及び口頭にて指示を受け対応している。マニュアルを徹底し安全に服薬できるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の仕事として自覚されて行われている事もあり、自発的にお手伝い頂くことも見られている。やりがいや達成感を感じて頂ける機会を増やすよう支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に全員とまではいかないが、数名の方に対して意向に合わせた外出を行う事が出来た。今後も、継続して定期的に企画・運営して外出の機会を日常的なものに出来るように取り組む。	春と秋にバスレクの外出を企画し、家族と共に楽しんでいる。近隣にある運営母体の病院やデイサービス、幼稚園などには、各事業所で行われる行事に参加したり、「おたがいサロン」に出かけるなど、交流を楽しみ気分転換を図っている。家族の協力の下に、受診後の夕食や外泊も支援している。	職員の配置や車両の配置が満たされている現状を活かして、外出の機会を更に検討し、屋外での様々な刺激に触れる機会を多くする事を期待したい。前回の期待項目として掲げているので継続で取り組むことが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はおこづかいはホームでの管理となっているが、自身でお金をお持ちの方もおり職員と共に買い物に出かけ自身で支払いを行って頂いている。また、使用時には帳簿に記入して頂き使用用途がわかるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などが届いた際には、御家族さまへ連絡を行い、ご本人様へお渡しする等の対応をしている。また、御家族さまからの電話連絡時には、出来るだけとりつぎし、お話をさせていただきように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、食席・ソファ席を用意し随時おくつろぎ頂ける様にしている。また、季節の装飾や行事の写真の掲載を行い、居心地良くお過ごし頂ける様にし日々、清掃を行いチェック表にて管理し清潔な環境でお過ごしいただけるよう支援している。	共有空間は清潔で掃除が行き届き、悪臭も無く、温・湿度も管理されている。キッチン是对面式で、リビングには食卓テーブルとソファが配置され、職員と利用者は、常に一緒に食事の準備やレクレーションを楽しむ空間となっている。壁には、季節の飾りが施されたり、利用者の書初めの作品が掲示され、温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事等以外の時間は自由にお座り頂き、気の合った入居者様同士が過ごせるようにしている。また、作業時にも自由にテーブル席をお使いいただけるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、御家族さまとの相談の上、なじみの空間の提供を行える様、家具や写真などを配置できるようにし、随時、ご本人様にとっての思い出の物等をお持ちいただけるようご家族の協力をいただき対応している。	全居室にバルコニーが設置され、季節の移ろいを楽しめ、陽射しも差し込んで明るい。筆筒も設置され、収納に便利である。利用者は、馴染みの品や趣味の品、家族、本人の写真などを飾り、安らぎを感じる居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室も分かりやすく表示し、車椅子や歩行器使用の方も安全に移動が出来る様動線の確保を行っている。また、動線を確保する事で車椅子での自走も行って下さっている。		